



発行

兵庫県知的障害者施設協会
兵庫県知的障害者施設保護者協議会
〒659-0015

芦屋市楠町16番5号 三田谷学園内

発行責任者 堀 執

TEL (0797) 22-5025

FAX (0797) 22-7885

印刷所 株式会社アカツキ印刷

制度改革への提言

兵庫県知的障害者施設協会

会長 堀

執



社会福祉事業の基礎構造改革が審議され、その方向性が先般、在り方に関する検討会から示されて、明らかになっていきます。社会福祉事業法をはじめとする法制度が現状と合わなくなっていることは明白な事実であります。私の感ずるところを記してみたいと思います。まず、その中味で「市場原理」「効率化」という言葉が全体を貫いています。福祉をサービスと位置づけ、与える側と受ける側というとらえ方をしています。つまりところ「富の分配」について公明性、公平性の基本はいかにあるべきか、そして、現在の財政状況、社会情勢をその基盤にしています。当然といえば当然のことですが、はたしてそれで将来性があるのか、普遍性はあるのか疑問です。それは、現状の危機的状況を生んだことへの反省、すなわち戦後の日本の福祉政策が十分に吟味し正されていないのではないかと、社会資本や経済状況によって左右される福祉にその軸を置く構造改革をしようとするれば

市場原理、効率化の導入となるのです。この際、歴史からきちんと学ぶという正論ともう一つ大切なことは現場をよく知ってもらいたいということです。例えば、施設職員の労働時間も週四十時間にはなりました。しかし、施設の中味、実態の処遇サービスの中味はどうなったのか、職員の処遇は目に見えてチェックができませんが声を出したくとも出せない障害者のやるせない泣き声はないのでしょうか、同じ人間として障害があるために日々施設で生活している方々の実態、特に重度の人の気持をこの構造改革を審議している先生方は充分ご存知なのでしょうか、意外に「昔は知っていた」とかで現状を知らない人はいるものです。建物はホテル並みになっても、個人の持物はどのぐらいの制約を受けているか、日常の生活で選択肢はどの程度あるのか、等々。ノーマライゼーションは一番弱い立場の人にその目線・基準を合わせなければなりません。施設を知っていただくためには見せた

くない部分を正しく見せ情報を示し公開しなければなりません。

介護保険制度が決まり、私達の障害施設へも近年その導入についての研究が結論づけられるでしょう。そこで、その前にどうしてもやらねばならないことがあります。それは、①公民の格差、②地域の格差を公開することです。例えば、同種別の施設職員の一人当りの人件費（事務費）が東京都は兵庫県の何と3倍もあります。驚くばかりです。

先般福島県の入所更生施設での事件でその利用者のほとんどが東京都の方々であることはご存知でしょう。自主解散してその利用者は一体どこへ受入れられたのか。東京都の方々に他の道府県の施設でどのくらい受入れられているのか情報が流れてこないのです。

福祉事業は直接人間の幸せにかかわる深く、広く、重いつとめであります。市場原理や効率化のような数値化しにくい複雑な内容をもっています。とりわけ重度の方々には。私達の施設職員の仕事内容も情報公開され問われることになります。古い職員であぐらをかいていないかすぐに責任を転嫁してはいないか。自分を愛するように他への愛を忘れない集団でなければなりません。

平成九年度

近畿施設職員研修会報告

研修委員長 婦木 治

第34回近畿地区施設職員研修大会が去る二月三日・四日に神戸市勤労会館において行なわれました。参加者は、470名を越える過去最大の大会となりました。

今回の大会のコンセプトは、社会福祉制度・施設運営全般に大幅な転換期を迎えている中で、本人主体の良質で専門性の高いサービスを提供するために、従来までの施設施策を十分に洗い直し、将来へ向けてこれからの施設の役割を多角的に検討することとしました。

開会式・中央情勢報告の後、課題別分科会(10分科会)を開催しました。課題別は、現在社会福祉施設関係が運営上、特に留意し重要な分野と考えられる10の課題について発題・質疑応答・助言を加えました。その内容は、施設が在宅支援策を実践している事例・施設が地域生活の拠点となっている事例などの「地域生活を考えるⅠ・Ⅱ」処遇関係として「求められる利用児・者処遇」「処遇困難事例とその援助」「具体的高齢化対策と課題」、給食関係として「豊かな食生活をめざして」医療関係については「施設の医療について」事務関係については「効率的・具体的事務処理について」そして「人権

について考える」「これからの施設の役割を考える」の10課題です。特に処遇関係の分科会には参加希望者が多く、施設現場で苦慮しているケースとスーパーバイザーとしての立場の人材が不足していることがうかがえました。そして施設間格差がそれ程あるとは思っていなかったのですが、予測に反した事例もありました。次に種別分科会においては、児童通園から通勤寮まで種別ごとに個々の課題としていくことについて発題をし検討を加えました。その後の懇親会では、今道大阪愛護会長のあいさつ、乾杯の音頭で始まりました。若者対応のメニューで食物も十分にあり他府県の人達との交流も十分に出来て、神戸の夜のひとときを楽しむことが出来ました。

二日目は、施設利用児・者実態調査報告が始まりました。新しい判定基準についての検討を目的として、県知的障害者施設協会調査研究委員会の8名の委員と大阪教育大学障害教育講座の真城知巳先生と関西医科大学公衆衛生教室の上田照子先生が助言者及び分析担当として加わっていただきました。報告書の内容は、予備調査の段階で今後2次調査3次調査を繰り返し最終的な調査項目を

定めていきます。第一次調査では、施設職員の主観的疲労に関する予備調査として行ない、調査項目はあくまでも施設利用者を前提にして考えていきました。その内容は施設内で起ったことを項目に上げました。その上、重要と考えたのは、誰が調査してもその内容が理解出来るいて、実態に合っていることと、標準化することです。そして障害程度を介護度に落とし込むこととし、第一回の予備調査では、職員の肉体的・精神的疲労度を記入してもらいました。この調査は本人の状態像を追求するスケールを目ざすのではなく、介護度合を追求するスケールづくりを目ざしました。助言者の上田先生・真城先生には、調査項目の整理と分析(因子分析)をお願いし、さらに項目の絞り込みを実施してもらいました。

その結果43項目に絞り込まれ、今後は職員の利用者への対応に関する客観的指標について情報収集をし、今回の主観的評価に対して、客観的指標による調査が予定されています。そして両者から構成される総合評価尺度が出来るのであります。あくまでも現時点では、第一次調査であり、最終的な調査表ではなく、仮定の段階での調査項目であるので調査表を公開するのは好ましいとは思いません。

最後に、この調査表が出来上がれば、入所時の面接や指針・福祉事務所との面接などにも利用が出来ます。但し、この基準でかなり度数の高い

人が即、入所受入れ拒否とならないように留意しなければなりません。大切なのは、これだけの内容であり、それに対応出来る処遇プログラムを構築する必要があります。

しかし精更相の判定に替わるものではなく、点数化によってこれだけ大変な人がこれくらいの人数入所していますとか、重度加算の基礎資料としても使用出来ると思います。

大会記念講演として、東京医科大学医学部教授藤田紘一郎先生の「寄生虫とヒトとの共生」丁きれい好きの功罪検証」のお話を拝聴しました。スライドをたくさん使用し、感染症や寄生虫の話など日本人の誤った考え方や環境問題についての警鐘など幅広い経験と深い知識で、ほんとうに楽しく聴くことが出来ました。もう一度機会があれば聴きたいと思いました。最後に閉会式で、大原副会長のあいさつと次回開催の滋賀県林会長のあいさつで二日間の予定を終了することが出来ました。



藤田紘一郎先生の講演

力いっぱい、愛いっぱい

ゆうあいピック愛知・名古屋大会同行記

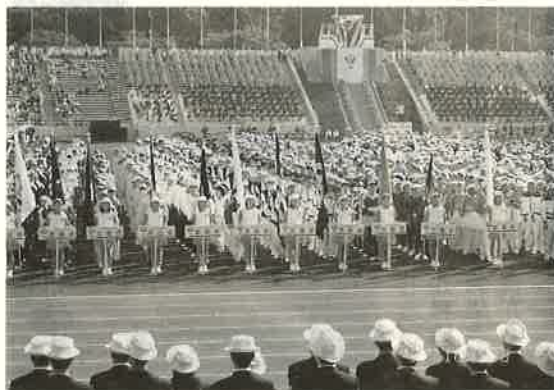
(第六回全国知的障害者スポーツ大会)

知的障害者の自立と社会参加の促進を目指す第六回全国知的障害者スポーツ大会(ゆうあいピック愛知・名古屋大会)が平成九年十月十八日(土)、十九日(日)の両日にわたって、「力いっぱい、愛いっぱい」をスローガンに名古屋市内六会場で開催されました。全国から過去最高の約四千五百人の選手団が参加し、ボランティアを含め総勢約一万五千人が大会を支えて下さいました。

兵庫県選手団は堺執会長(県知的障害者施設協会会長)を団長として、選手四十人、役員二十八人の総勢六十八人の参加となりました。

兵庫県選手団は十七日(金)午後二時二十六分発の新幹線で新大阪を出発、神戸市選手団は同日の午前の新幹線で新神戸を出発しました。名古屋駅へは大会役員と学生コンパニオンの出迎えを受け、宿舎のホテルへそれぞれ案内してもらいました。

十八日、名古屋市の瑞穂公園陸上競技場での開会式が華やかに開幕しました。開会式は午前九時から始まり、都道府県や指定都市のそろいの



ユニホームを着用し入場した選手団が、色とりどりの姿で行進しました。当日は朝から素晴らしい青空が広がり、上空には赤トンボが舞いこの日、この時に華を添えてくれました。高円宮ご夫妻のご臨席の中、炬火の点火、大会会長(鈴木愛知県知事)のあいさつ、愛知県選手団、名古屋市選手団の代表二人が選手宣誓をして、開会式後の集団演技では地元の養護

学校の生徒ら約三千人が出演し、観客席から大きな歓声が上がりました。

競技は十七日正后から陸上競技男子千五百メートルを皮切りにスタート。兵庫県・神戸市の選手団の精鋭七十二人の選手は、二日間にわたり、陸上、水泳、卓球、ボウリング、フライングディスク、サッカー、バスケットボールの七種目で熱戦をくりひろげ健闘しました。

二日間の大会日程を終え、閉会式と後夜祭が名古屋市総合体育館で行なわれました。閉会式では大会旗が来年の開催地・茨城県に引き継がれました。そしてアリーナの選手団代表たちが退場するとき、観客席から自然とウェーブが生まれました。始めは遠慮がちだった波も、次第に大きくなり、大きな歓声とともにいつまでもウェーブは続き、全国の選手たちの心が一つになったすばらしいファイナルでした。

後夜祭は軽快な吹奏楽演奏で幕開けし、「だれもひとりじゃない」を作詞・作曲した歌手、田村直美さんも登場し、選手とボランティア等が肩を組んで歌を口ずさみ、おおいに盛り上がりました。

二十日、兵庫県選手団は、宿舎としていた名古屋国際ホテルを出発し、犬山市にある「リトルワールド」の観光を楽しんだ後、バスにて新大阪

へ向け帰路につき、予定通り午後三時すぎ到着し、解散しました。

最後に大会期間中、選手団のお世話や応援をして下さった東三河福祉事務所の三人の職員の方と名古屋文化学園保育専門学校の八人のコンパニオンの方には大変お世話になりました。紙面をかりて御礼申し上げます。

一記 録一

【兵庫県選手団】

陸上 金6 銀4 銅1
水泳 金4 銀1 銅1
卓球 銀1 銅1

※大会新記録

○蔵本のぶ子さん(ななくさ育成園) 女子走高跳び・壮年組 0 m 90 cm

○小林稔さん(県立姫路養護学校) 男子水泳25 m バタフライ・少年組 17 秒 43

【神戸市選手団】

陸上 金3 銀1 銅2
水泳 金1 銅1
卓球 銅1
ボウリング 金1 銅1
フライングディスク 銀1
バスケット 銀1

文責 県施設協会スポーツ担当 井上久芳

平成九年度ブロック研修会報告

兵庫県施設保護者協議会

副会長 須田 幸子

◎西中播磨ブロック

九月五日(金)

〈内容〉

○施設見学／いちよう園

○講演／中央公民館

「保護者と障害の高齢化について」

講師／九利溪子氏

左記の通りブロック研修会が開催されましたので報告いたします。

九利氏は障害者の方と何処までも一緒に行動なさる方で現在八十歳

◎神戸ブロック

七月九日(水)／神戸市東部在宅障害者福祉センター

〈内容〉

○施設間の情報交換

親子の高齢化問題について

利用者の安全確保対策について

十二月二日／神戸市東部在宅障害者福祉センター

〈内容〉

○講演／「障害福祉行政の現況報告及び計画」

神戸市障害福祉部育成課

吉岡 崇 課長

○施設間の情報交換

吉岡 崇 課長

吉岡 崇 課長

吉岡 崇 課長

吉岡 崇 課長



とお聞きしました。お子さまはお母様が講演されている時には前の方に着席して聞いておられました。そんな姿や駅の階段を共に手をつないで降りて行かれる姿が印象的でした。

◎東北播磨ブロック

十月二十三日(木)／ウエルネスパーク五色「浜千鳥」(五色町)

〈内容〉

○香の里見学

○講演

「利用者の高齢化について」

／村井 勝五色精光園長

／村井 勝五色精光園長

◎阪神ブロック

十月十四日(火)／三田谷治療教育院

〈内容〉

行政、施設長等のご来賓と多数の会員が広いホールを埋め尽くし、活発で熱っぽい意見交換がなされました。

活発で熱っぽい意見交換がなされました。

活発で熱っぽい意見交換がなされました。

活発で熱っぽい意見交換がなされました。

活発で熱っぽい意見交換がなされました。

活発で熱っぽい意見交換がなされました。

活発で熱っぽい意見交換がなされました。

活発で熱っぽい意見交換がなされました。

活発で熱っぽい意見交換がなされました。

活発で熱っぽい意見交換がなされました。

活発で熱っぽい意見交換がなされました。

活発で熱っぽい意見交換がなされました。

活発で熱っぽい意見交換がなされました。

活発で熱っぽい意見交換がなされました。

です。

障害者をもつ親の将来、子の将来、そして家族関係等重なり合った将来に不安がのしかかっている、この社会を如何にのりきってゆくかが共通した悩みであると思われました。

○介護保険法が制定されても、知的障害者は利用できないのではないかと、という不安の声。

○通所施設に通っている。老いても共に生きたいので、送迎バスがあれば入所施設の心配をせずに済むのだが。

○施設の老朽化に対しての整備。

○職員体制の在り方。

○幼児施設に行っているが、職員との考え方の違いに戸惑う。先輩のお母さん方と話し合う機会がほしい。

○幼児の場合、親の認識不足により勉強会を開く等自分たちを高める活動をしたい。

○地域にある市町の親の会に入るべきか、県に入るべきか。

○知的障害者をもつ親として、福祉面、社会面に於て勉強すべきだ。

○知的障害者をもつ親として、福祉面、社会面に於て勉強すべきだ。

○知的障害者をもつ親として、福祉面、社会面に於て勉強すべきだ。

○知的障害者をもつ親として、福祉面、社会面に於て勉強すべきだ。

○知的障害者をもつ親として、福祉面、社会面に於て勉強すべきだ。

○知的障害者をもつ親として、福祉面、社会面に於て勉強すべきだ。

○知的障害者をもつ親として、福祉面、社会面に於て勉強すべきだ。

○知的障害者をもつ親として、福祉面、社会面に於て勉強すべきだ。

○知的障害者をもつ親として、福祉面、社会面に於て勉強すべきだ。

○知的障害者をもつ親として、福祉面、社会面に於て勉強すべきだ。

○知的障害者をもつ親として、福祉面、社会面に於て勉強すべきだ。

○知的障害者をもつ親として、福祉面、社会面に於て勉強すべきだ。

○知的障害者をもつ親として、福祉面、社会面に於て勉強すべきだ。

○知的障害者をもつ親として、福祉面、社会面に於て勉強すべきだ。

平成九年度

『愛護の集い』

—あなたが歩く道だから—

恒例の「愛護の集い」が9月25日(木)県立のじぎく会館に於いて開催された。育成会59名、保護者178名、施設からは104名の合計341名が参加し、のじぎく会館の大ホールを埋めつくした。

会は定刻の10時に始まり、本協会の堺会長の挨拶に引き続き、行政・関係団体の来賓より祝辞を頂戴した。その後この度全日本手をつなぐ育成会副理事長に就任された藤原治氏(県育成会理事長)より「育成会情勢報告」を伺い、実践報告に移った。本年は「自立支援・社会参加支援」をキーワードとして学校の立場から県立高等養護学校・小林庶良校長、施設の立場から滋賀県の信楽通勤寮副島忠義寮長よりそれぞれ現状の報告がなされた。

昼食休憩の後、「バーチャル時代の子どもの教育」—最近の非行・新犯罪から探る—という演題で、六甲カウンセリング研究所所長の井上敏明氏による興味深い講演を拝聴した。最後に大会宣言を採択し、池田保護者協議会会長の挨拶により閉会した。

◎大会宣言

知的障害者福祉関係の四団体が一同に会し、平成九年度の「愛護の集い」をここに開催し、知的障害者の更なる福祉の向上のために自己研修と社会への啓発を約しました。

特に、次の事項について四団体の活動として努力するとともに関係機関に対して強く要望致します。

- 一、地域で共に生きる街づくりを推進する。
- 二、施設利用者の環境向上のための人的、物的条件の整備を図る。
- 三、日常生活の中で知的障害者に対する偏見の除去や権利侵害の具体的な事実を点検し改善を図る。
- 四、知的障害者のスポーツ、文化活動の場を広げ本人の社会参加と自立に資する。
- 五、福祉四団体は一層努力して安全の確保と災害や事故に対して早急に対応する。



井上敏明先生の講演

福祉四団体

賀詞交換会

平成十年賀詞交換会が一月十四日、楠公会館において、十九名の来賓を迎え二四〇名を超える参加者で盛大に開催されました。兵庫県知的障害者施設利用者互助会の福田理事長の開会宣言に続いて、兵庫県社会福祉施設経営者協議会の金附会長の発声により、阪神・淡路大震災で犠牲になられた方々への黙祷が捧げられました。

続いて、主催者を代表して兵庫県知的障害者施設協会の堺会長より、「知的に障害を持つ人達をはさんで、施設と育成会があるが、全国的にみても兵庫県は類を見ない程に関係が良い。この四団体の賀詞交換会もそうである。今年も互いに手を携えて知的障害の人達の福祉の向上に向けて誓いを新たにしよう」と賀詞交換会の意義にも触れて力強い呼びかけがありました。

続いて来賓の祝辞に移り、大西兵庫県福祉部障害福祉課長より「平成十年度障害福祉施策推進においては、厳しい財政状況ではあるが自立生活や作業活動の場として重要な小規模作業所等の充実を図りたい」「行政と施設、地域社会の緊密な連携の中で信頼関係を築いていくことが重要

である」、続いて藤井神戸市保健福祉局障害福祉部長からは「障害者保健福祉計画において、今後五年間に具体的な数字を掲げながら施設整備等を進めたい」「震災復興に向けて財政状況は非常に厳しいが『共に住み続けたい町』を目指したい」との挨拶をいただきました。

そして(財)兵庫県手をつなぐ育成会藤原理事長の乾杯の音頭によって、祝宴、歓談に移りました。

各テーブルで、そしてしばらくするとあちこちのテーブルに移りなが



ら、挨拶やら握手やら笑い声やらの中で、新しい仲間を得て、あるいは旧知の仲で話が弾み、参加者それぞれが輪を広げ、四団体の輪が更に強固になっていったことでしょう。

最後に、兵庫県知的障害者施設保護者協議会の池田会長より、「共に生きる」という言葉と、昨年に引き続いている、「一本締め」で力強く会が締めくくられました。

医療従事者研修会

研修委員長 婦木 治

昨年十一月十七日(月)に嬉野台生涯教育センターにおいて看護婦等医療従事者研修会を実施しました。

参加者は大半が看護婦で、施設においては一人しかない職種であり、生命・健康管理部門という一番重要な業務を受け持っている立場です。しかし意見発表や問題提起を聞いていると、情報入手の希少さや通院に日常業務の大半を取られ、きめ細かな利用者への治療やカウンセリングなどはほとんど出来ない状況であるとのことでした。看護婦の配置されている施設がこのような状態であるのだから、配置義務のない施設はさらに劣っている状態ではないのでしょうか。施設現場の看護婦は、嘱託医や協力医療機関との連絡調整や突発的な病気やケガにも時間に関係なく走りまわっているのが現状です。その上入院患者が出ればもうパニックです。看護婦の複数配置や医療担当職員の増員により対応されている施設もありますが、今の現状では、看護婦確保についても厳しい状況になるのではないのでしょうか。

以上のことから、研修会に出ることにすままならない看護婦が施設利用者者に十分なる看護の時間がとれ、綿密な健康管理プログラムが実施出来るようにするには、やはり看護婦養成学校との深い連携、組織として看護婦募集、登録、施設間看護婦ネットワークのシステムを作ることなど少しかえても次々に上がってきます。一人しかない職種だからこそ、その職種の重要性を施設全体が認識し、十分なる情報と不安解消の出来る体制、さらにより高い資質を求めているシステムを作っていくたいものです。(施設の看護婦は、オールマイティーではないのです。)

時間を超過させ遅くまで勤務し、適確な判断と指示を要求され、絶対にミスは許されず、書類面は完備させ、自宅にいても電話に神経過敏になるような状態は誰でも経験しています。それがプロとして要求されているものであると言ってしまうはそれまでですが、「職員の健康管理まで十分に対応出来ないんです」とは参加者の声でした。

兵庫県知的障害者施設協会主催 秋季軟式野球大会報告

新緑の家 山本 忠明

平成9年11月8日(土)に、山崎町民グラウンドにおいて、兵庫県下、知的障害者施設協会に加盟している8チーム中5チームが参加して、秋季大会が開催されました。

当日抽選で第一試合は、播但ブルータスと最近めきめきと力をつけてきたななくさ学園チームとの対戦。ブルータスの大山投手は緩急をつけた頭脳のピッチングを披露し、ななくさの橋投手はスピードのある真つすぐを中心に、切れの良いカーブ、スライダーをコーナーに投げ分け息づまる投手戦となりました。

結果は1対0で、過去のこの大会では例を見ない手に汗を握る好ゲームでブルータスが勝利をおさめました。

第二試合は、峰相野球倶楽部と神戸愛護グリーンズとの対戦、力の差は少しあったけれども、終ってからバレーキューでは、勝負は関係ないよとチームワークのよさで盛り上がりを見せておりました。

第三試合は、赤穂精華園チームと

播但ブルータスとの対戦、精華園は、「参加する事に意義がある」とのチームカラーで今年は試合に臨んでいましたが、来年は兵庫県社会福祉事業団で1チームを編成し優勝を目指したいとの堅い決意で帰路につかれました。

決勝戦は、昨年と同じ顔合せとなり、ここ数年勝ったり負けたりブルータスとグリーンズ、両チーム共に投手力を中心とした守りのチームで似かよった所があり、点の取り谷いにはならなく、一点をどう取るかの戦いとなりました。決勝戦まで1人で投げぬいた、ブルータス大山投手は後半疲れが目立ち、投手が3人いるグリーンズが接戦を物にしました。

勝ち負けにこだわらず、協会の会員が年に一度の野球大会に参加して親睦を深め体力をつけ、知的障害者処遇の向上に役立てる事が出来れば、と願っております。そして、1チームでも1人でも増えて、益々盛んになってほしいものです。今後共、応援宜しく願っています。

尚、最後に今大会の最優秀選手は、神戸愛護グリーンズの児玉 健二(一塁手(さわらび学園))が選ばれました。来年もさらに活躍されますよう期待しています。

「保護者便り」

希望の郷

吉田 初子

もし、私が亡くなったら入所している子供はどうなるだろうと、不安に思われた方は私ばかりではないだろう。まして、施設に入所されず在宅の人達の保護者は、私よりももっと深刻な問題ではないだろうか。私には入所している娘の上に兄が一人いる。まだ未婚の25才。

先日、息子に「結婚する相手は見つかったか」と尋ねると、「妹の面倒は僕と嫁さんとで見らんやろ?」と言った。もちろん25才で家業を継ぐべく家から離れて修行中の身で、まだ結婚という現実からは遠いように思われるが、返ってきた答えに愕然とした。2才違いの妹が生まれてからの私は娘にかかりきりで、長男がどう育ってきたか記憶も薄く、私も夫も足が悪いというハンディがある為娘の養育には、私達に代わる足としての役目を彼に負わせてきた。

気がつけば、夫、私、長男で娘の保護者という形になっていた。

彼の子供としての時代を、ゆつくりとみてやらなかった後ろめたさに申し訳ない気持ちで、彼が結婚してからも、妹を背負った生き方を案じ

ていると感じた時、「心配しなくてもいいよ、お母さんと同じようにみてやれないだろうから、施設でお世話して頂いて時々見に行つてやつて...」と思わずいった。私の正直な気持ちで言ったのだが、何故か、そう言つても良いですか?と誰、彼に尋ねな

くてはいけないような、不安な気持ちになった。障害のある人が家族にいるということ、知らず知らず世間から「家族なのだから」の言葉で圧力がかけられているような気がする。決して娘を忘れてはいない。いつも、いつも、私だけではない、入所

させている親も、手元においている親もその子の事ばかり考えていることをわかつてほしい。

保護者会に來ない人。面會に來ない人。でも、それは來たくないからとは思わない。來たくても來れない何かがある。來れない人の、気持ちを考えて何とか安心して頂けるような保護者会でありたいと思う。

親の亡き後、誰がどう保護者として引き受けるか、物理的にも精神的にもとても難しい問題です。それだけに、個々の事情もあり、周りから「家族なのだから」という目で、先

「保護者便り」

保護者の心構え

ワークプラザ宝塚 下村 恭子

宝塚さんか福祉会が運営する「ワークプラザ宝塚」が開設されて早や4年余りになります。知的障害をもつ人たちの自立と社会参加(就労)を目標にすると共に、地域の人のふれあいを大切にして、真に開かれた施設として、施設長はじめ職員の皆様は、日々努力しておられます。

お陰さまで大勢の地域のボランティアの方々の協力も得られ、私達保護者としても感謝しなければなりません。又、ワークプラザの大きな目標である就職についても、これまでに八名の利用者がめでたく企業に就職することが出来ました。その歓送会に参加した利用者の人たちは皆「僕も、私も」と胸をふくらませていたことと思います。「後に続く人たちが頑張つて欲しい。保護者もその気になって取り組んで欲しい。」施設側からいつも言われる言葉です。意思疎通がままならない我が息子には程遠い気がしますが、何か特技が生かせる職場があればと、望みは捨てきれません。

せつかくの機会があつても、保護

者の消極的な考えで、本人の自立を阻害しているようなことはないでしょうか。失敗を恐れず自立への挑戦に立ち向かわせることが、保護者の心構えだと思います。

保護者(親)の元氣なうちに、支援出来る時に、色々な体験をさせて少しでも自信をもたせることが親亡き後も、地域で援助を受けながら、幸せに生きて行ける原動力となることでしょう。

「誰かがやってくれる」と言った考えは改めたいものです。自分に何が出来るかを考え、意見を出し合い、実行して行くことが必要だと思います。

宝塚は、手をつなぐ育成会会員の大きな力で、懸命に資金作りをはじめ、関係機関の協力を得て訓練ホーム、生活ホーム、さらに入所施設と整備されつつあります。さまざまなニーズをふまえ、心を一つに活動した成果が現れてきたものと思います。利用者を中心に、施設の職員の方々と保護者が協力しあつて、

見放さないで 見守つて
焦らず あきらめず

求めることは 根気よく
愛することを 忘れないで

いつかテレビ番組で聞いたこの言葉を教訓に、これからも努力し続けたいと思います。

「職員便り」

釣りとの出会い

―そしてその後―

ななくさ育成園 幾田 仁史

あれは私が小学校4年生の夏休みの事です。今でもはっきり覚えています。友達から魚釣りに誘われ、一度も経験がなかったので一旦は断わったのですが、なぜか魚釣りという言葉が気に入り、結局その友達に同行してしまいました。それ以来、釣りの虜になりヘラブナ、投げ釣り、船釣り、磯釣り様々な釣りを楽しんできました。最近では、子供に連れられてルアーもするようになりましたが、何といつても今、はまっているのがチヌ釣りです。チヌ釣りといってもいろんな釣法があります。磯から狙うこともあれば波止の際を狙う落とし込み釣法というものもあります。しかし、今一番気に入っているのが筏のチヌ釣りです。筏のチヌ釣りの説明の前にチヌとはどんな魚なのか簡単に説明いたします。種類は、クロダイ、キチヌ、ナンヨウチヌ、ミナミクロダイ、オーストラリアキチヌ等があげられます。一般に筏のチヌ釣りと言えはクロダイが対象とされています。警戒心強く賢い魚でなかなか釣りがつらいと言われる反面、初心者が虫エサをつけて

ぶっ込んで置いていた仕掛けに食いついてきたりし、意外性のある魚としても有名です。

筏のチヌ釣り師の殆どは自作の竿を使います。私も仕事が終わって自宅のガレージで夜遅くまで竿作りをしたものです。竿の長さは2m前後、穂先を細く削りどんな小さなアタリでも取れるようにしています。アタリ(魚がエサを食べた時に竿先あるいはウキに変化がみられること)は竿先を1〜2cm押え込みます。これを前アタリといい、ここで合わせるとはほとんどハリにはかかりません。この前アタリの後に竿先が海面まで入るような大きなアタリがきます。この時に合わせると殆どハリにかかります。と簡単に書いていますが、これがなかなか難しいところですが、又、そこがおもしろいところでもあります。細くて短い竿で50cmオーバーを釣る醍醐味は最高であり、また釣り人にとって50cmオーバーのチヌを釣ることがひとつの勲章でもあると言われています。ちなみに、チヌの日本記録は1978年10月5日、三重県尾鷲湾で釣れた69.5cmで、チヌの60cmオーバーが釣れる確率は、宝くじに当たるより低いと言われています。今後、夢の60cmオーバーを狙い和歌山方面、四国方面へ車を走らせたいと思っております。

△日誌抄▽

9月5日	第4回役員会 (三田谷学園)	17日	医療従事者研修会 (嬉野台生涯教育センター)
13日	ゆうあい音楽祭(和田山)	28日	近畿愛護役員会(京都)
17日	全国社会福祉施設経営者大会 (神戸)	12月14日	近畿地区通勤寮交流会 (大阪)
18日	播淡地区職員研修会 (姫路)	16日	播淡地区施設長会 (姫路)
22日	播淡地区施設長会 (姫路)	19日	経営協理事会 (神戸)
25日	愛護の集い (のじぎく会館)	1月9日	新年福祉のつどい(神戸)
	この日より「兵庫県知的障害者施設協会」に名称変更	14日	賀詞交換会(楠公会館)
10月1〜3日	全国職員研究大会 (仙台)	17日	震災犠牲者追悼式 (県公館)
8日	近畿地区通勤寮施設長会 (東京)	28日	近畿愛護役員会 (京都)
9日	全国会長会議 (東京)	29日	臨時役員会 (神戸市勤労会館)
19日	ゆうあいビック愛知・名古屋大会 (名古屋)	30日	第6回ぱんたん・ゆうあい文化祭 (姫路)
20日	地域生活支援を考える研修会 (しあわせの村)	2月3〜4日	第34回近畿地区施設職員研修会 (神戸市勤労会館)
21日	全国事務局長会議(東京)	13日	町づくりフェア in 高砂 (高砂)
29日	県社会福祉大会(小野)	18日	ゆうあいSP大会説明会 (尼崎)
30日	全国入所更生部会運営協議会 (東京)	25日	入所・通所授産部会 (加古川)
11月5日	通所更生部会研修会 (姫路)	3月5日	第7回役員会 (三田谷学園)
8日	職員野球大会(山崎町)	6日	阪丹但地区研修会 (あしや喜楽苑)
10日	ゆうあいSP大会挨拶 (尼崎)	9日	県外先進地視察 (京都)
	播淡地区職員研修会 (姫路)	18日	児童通園部会施設長会 (尼崎市)
11日	第5回役員会 (三田谷学園)	18日	児童通園部会阪神プロック研修会 (宝塚市)
13日	近畿地区施設長会 (滋賀)	18日	入所更生部会(加古川)
13日	近畿地区施設長会 (滋賀)	26日	児童通園部会阪神プロック研修会 (宝塚市)